

令和元年台風19号被害への対応状況等について（11月29日12:00現在）

台風19号で被害を受けた各地で情報共有会議が開催されています。福島県いわき市、栃木県宇都宮市、宮城県丸森町では、市町域の情報共有会議も行われ、JVOADスタッフも各地の会議に参加し、そこで共有された課題解決に向けて、行政、社会福祉協議会、NPO等と連携して解決に向けた調整等を行っています。本日12:00時点で把握した状況についてご報告します。

○被害状況（11月28日7時現在 総務省消防庁資料）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/taihuu19gou59.pdf>

人的被害：死者98名（うち災害関連死1名）、行方不明者3名、重傷者40名、軽傷者444名

住家被害：全壊2,849棟、半壊19,417棟、一部損壊20,642棟、床上浸水18,230棟、床下浸水28,710棟

\*10月25日の大雨による被害も含む

\*今後の罹災証明書発行に伴い、数字は変動する見込みです

○情報共有会議の開催

JVOADのホームページでも各地の情報共有会議の開催予定一覧を定期的に更新しています。市町域での会議も開催されてきており、より被災地に沿った支援に向けての連携が行われてきています。

○現地の状況

①東北方面（宮城県・福島県）

- ・大郷町では、被災者支援保険医療福祉ネットワークが設立され、保健士による訪問調査結果を共有し連携を図っていく予定
- ・丸森町では、行政と支援団体が連携して避難所の環境整備を進めている
- ・福島県では、東日本大震災で避難していた方が、再建した家屋で再度被災したケースも見られる
- ・在宅避難者の状況把握ができていないが、今後、保健士が訪問していくので、福祉ニーズ等については社会福祉協議会と情報共有する方向で検討している

②北関東（栃木県・茨城県）

- ・地元団体を中心に、民間の支援センターとして、宇都宮市では「うつのみや暮らし復興支援センター」、那須烏山市では「なすから暮らし復興支援センター」が設置され、災害ボランティアセンターと連携しながら住家以外の泥出しやサロン活動などに対応している
  - ・栃木県域の情報共有会議では、全体での情報共有後に、テーマごと（避難生活、床下対応、民間VCなど）に課題を整理し、解決に向けた話し合いが進められている
  - ・11月24日に、大子町で「ぬくもりを届けるプロジェクト」を実施、いくつかの団体が協力し、サロンの中で足湯や相談などに対応、今後被災各地で実施していく予定
- 被災後、初めて地域の方に再会した、まだ片づけをしているという声も聞こえている

③長野県

- ・長野県域の情報共有会議では、全体での情報共有後に、部会（在宅、学校連携&子供支援、情報発信、泥出し&農ボラ）に分かれて、課題解決に向けた話し合いを行っている

・土業同士が連携して、ワンストップの相談会を実施する予定

④千葉県

・地元NPOを中心に「千葉南部災害支援センター」が設置され、社会福祉協議会や技術系支援団体と連携しながら長期的にブルーシートの張り直しや倒木などの依頼に対応していくため、引き続き、調整を行っている

○災害ボランティアセンター

複数の市町村で、引き続きボランティアセンターが開設

開設状況については、全国社会福祉協議会 被災地支援・ボランティア情報を確認ください

URL：<https://www.saigaivc.com/>

○今後について

引き続き、地元関係団体と連携し、情報共有会議であがった課題等について、行政、社会福祉協議会、NPO/NGO、企業など多様なセクターと支援調整を行っていきます。宮城県、福島県、長野県については、当面の間JVOADスタッフが常駐し、支援を行っていきます。その他の地域についても、引き続き、出張ベースで支援にあたってまいります。床下・壁剥がしなどの対応、在宅避難の状況把握、仮設移行時の家電等の支援など、広域で共通している課題については、全国情報共有コア会議で共有し、国の制度と民間支援の調整など、各関係団体と連携して進めていきたいと思っております。